

広島県
商工会地域

中小企業景況調査報告書

第174回

令和5年10～12月期 実績

令和6年 1～3月期 予測

令和5年12月

広島県商工会連合会

中小企業景況調査の概要

1. 調査趣旨 この調査は、中小企業の景気動向を総合的に把握するため、全国の商工会、商工会議所、中小企業団体中央会の3団体の管内の企業約18,833企業を対象に四半期ごとに実施されている。調査結果は(独)中小企業基盤整備機構で集約・分析・公表され、中小企業施策立案等の基礎資料として活かされるものである。
- 広島県商工会連合会では、県内商工会地域の最新景況データを解析、報告書に取りまとめ、商工会の経営改善普及事業が効果的に実施されることを目的として、この報告書を公表する。
2. 調査対象 (対象地区) 県内15商工会
祇園町、広島東、江田島市、呉広域、佐伯、安芸津町、広島県央、三原臨空、大崎上島町、沼隈内海、福山北、福山あしな、神石高原、三次広域、備北
(対象企業) 231社
製造業50 建設業42 小売業70 サービス業69
3. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
4. 調査期間 令和5年10月～12月期実績、及び令和6年1月～3月期見通し
5. 調査時点 令和5年11月15日

6. DIとは Diffusion Index (景気動向指数)の略。
各調査項目について、増加(好転)企業割合から、減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示し、「変化の動向」を把握する。

DIがプラス(+)なら……………強気(楽観)、上昇機運

DIがマイナス(-)なら……………弱気(悲観)、低下機運

例えば、売上高で回答割合が、増加50%、不変30%、減少20%の場合、 $DI=50-20=30$ となり、全体としての経営者の強気(楽観)度合いを表している。

7. 表記基準 変化の動向(改善、悪化など)を解説する場合に用いた表記基準は次のとおり。

「横ばい」 0を基準に±2ポイント未満

「小幅、やや」 0を基準に±2～8ポイント未満

「大幅、大きく」 0を基準に±8ポイント以上

8. 表記基準 この集計値は、全国商工会連合会が提供する全国集計を基に、広島県商工会連合会の集計書式に収めて編集したものである。

(参考) 全国及び広島県内の経済動向について、その他機関による調査資料

■ (独)中小企業基盤整備機構 (3団体を含む全国版報告書)

https://www.smrj.go.jp/research_case/research/survey/index.html

■ 中国財務局 (中国地方の経済動向)

<https://www.chugoku.meti.go.jp/stat/keiki/index.html>

■ 広島県 (広島県経済の動向)

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/273/1244079054510.html>

1.ポイント ※(独)中小企業基盤整備機構「第174回中小企業景況調査(2023年10-12月期)のポイント」より

・中小企業の業況判断DIは、2期連続して低下

全産業の「業況判断DI(前期比季節調整値)」は、前期(2023年7-9月期)から6.1ポイント減(▲18.9)と2期連続して低下。産業別では、サービス業で11.5ポイント減(▲17.8)、卸売業9.4ポイント減(▲16.7)、小売業で5.9ポイント減(▲27.6)、製造業で2.6ポイント減(▲16.1)、建設業で2.2ポイント減(▲12.8)と低下。

来期

見通しは、全産業で上昇し、産業別では、建設業を除く4産業で上昇の見込み。

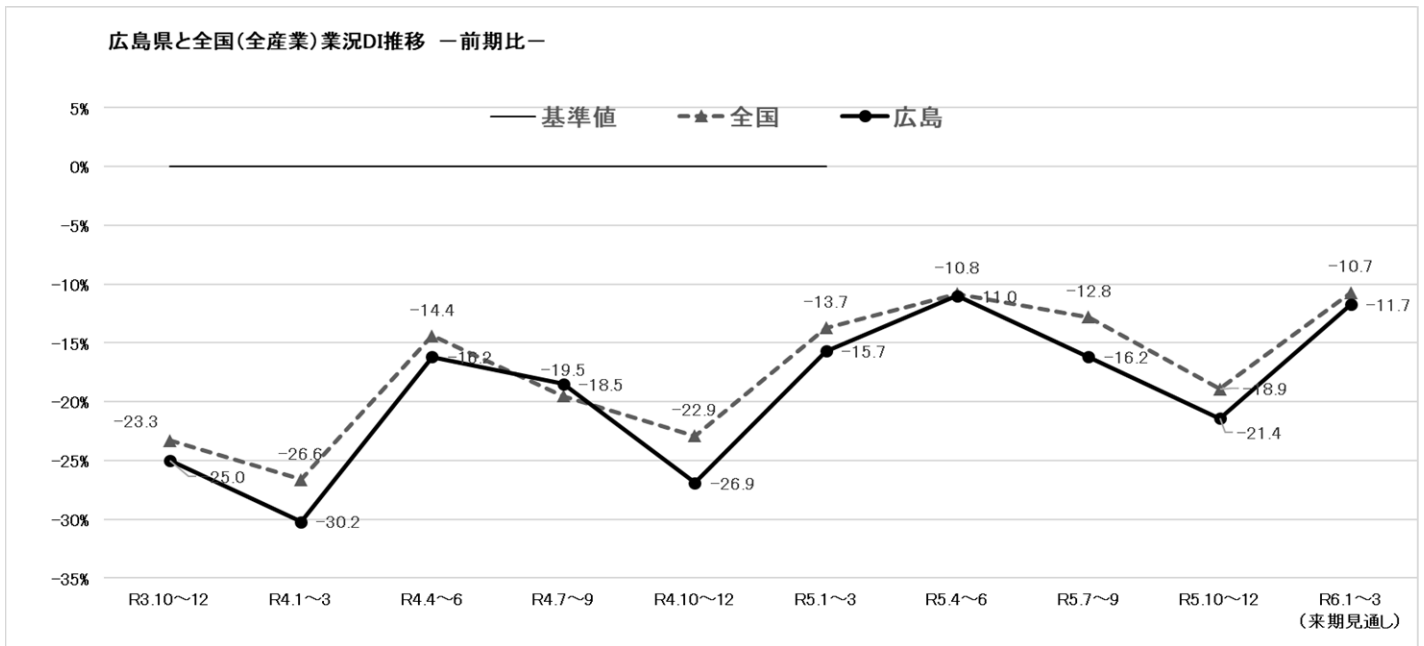
・原材料・商品仕入れ単価DIは、頭打ちも高水準を維持

「売上単価・客単価DI(前年同期比)」は、小売業で過去最高値を更新するも、製造業、建設業、卸売業、サービス業で頭打ちの状況にある。ただし、全産業の回答内訳をみると、2022年4-6月期以降、「上昇」の回答割合は7割を超える水準が継続しており、原材料価格は、高止まりの状況にある。

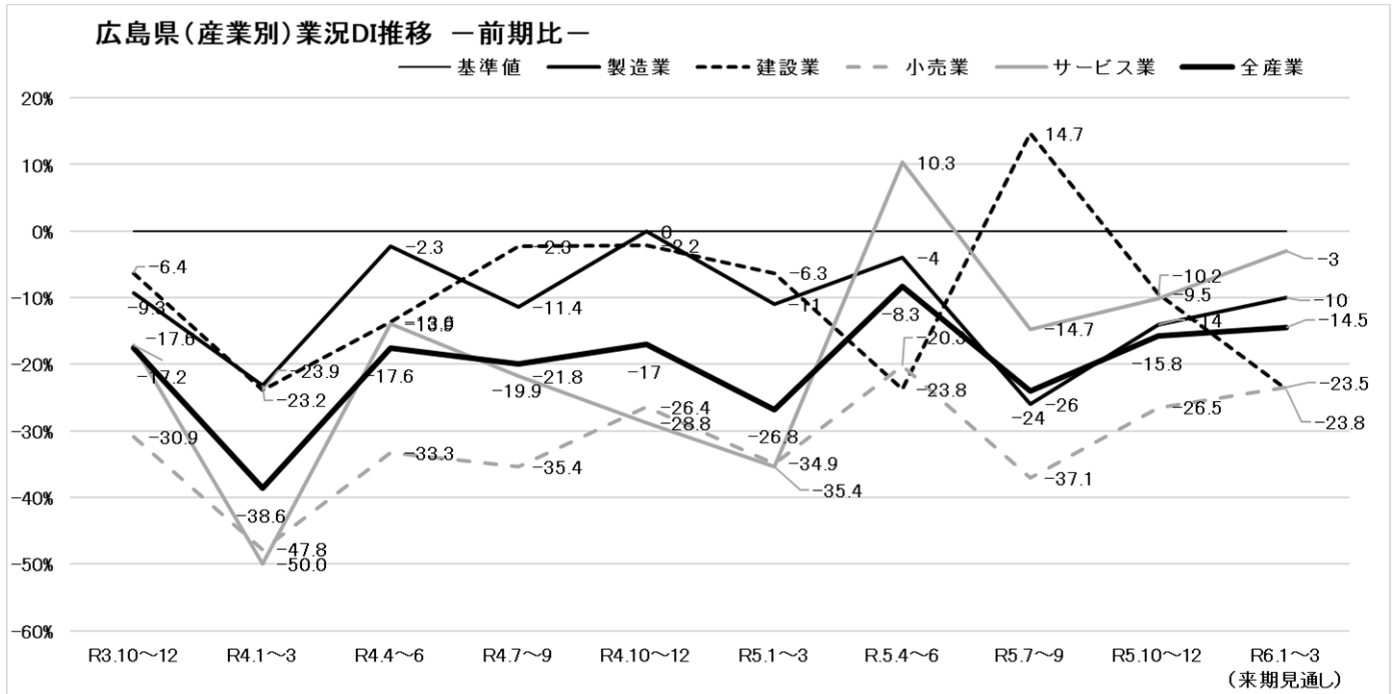
・製造業を中心に、設備投資実施割合が上昇

コロナ禍を経て、従業員の不足感が強まると「設備投資実施割合」が上昇する傾向が戻り、特に製造業では顕著である。企業活動の正常化や設備投資増加による資金の流出もあり、「資金繰りDI」は直近でやや低下、「借入金利DI」は上昇基調だが、「尺入難易度DI(長期資金)」は横ばいで推移している。

2. 広島県と全国(全産業) ※商工会、商工会議所、中小企業団体中央会の3団体データを含む。



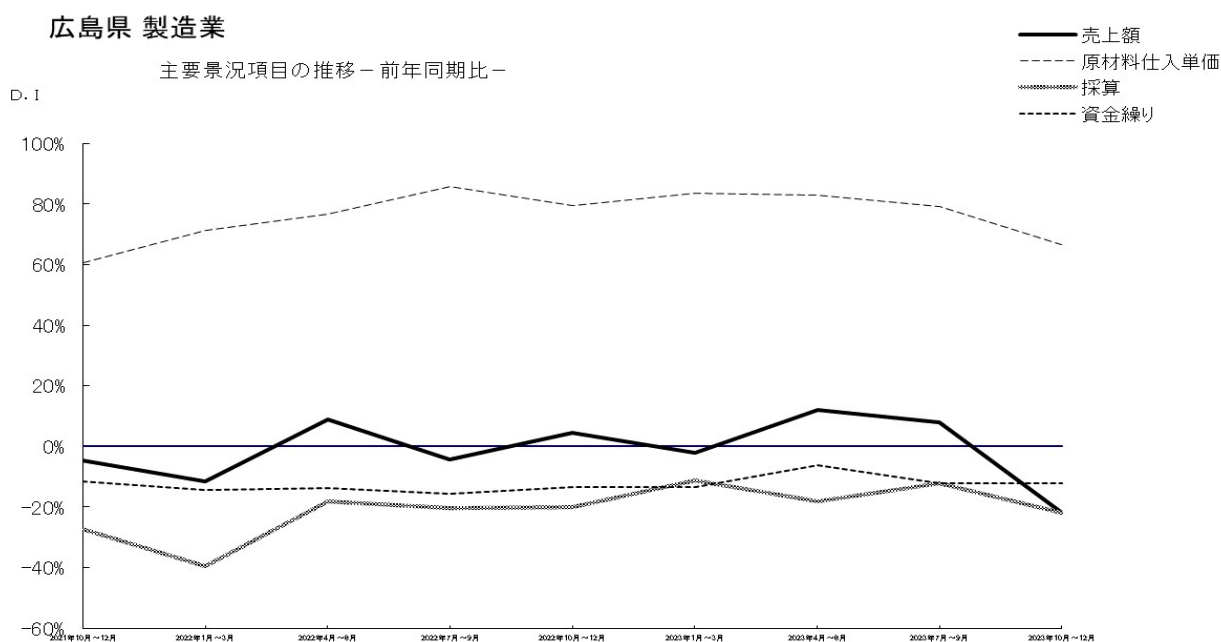
3. 広島県(産業別) ※商工会地域のみ



製造業（商工会地域）

1.主要景況項目の推移 -前年同期比-

主要項目	製造業 DI		（前年同期比）	
	（前期）	（今期）	（来期見通し）	（来期見通し）
	R5.7～9	R5.10～12	前期との比較	R6.1～3 今期との比較
売上額	8.0	-22.0	↓	-24.0 ↓
原材料仕入単価	79.2	66.6	↓	58.3 ↓
採算	-12.0	-22.0	↓	-14.0 ↑
資金繰り	-12.0	-12.0	↓	-12.0 →



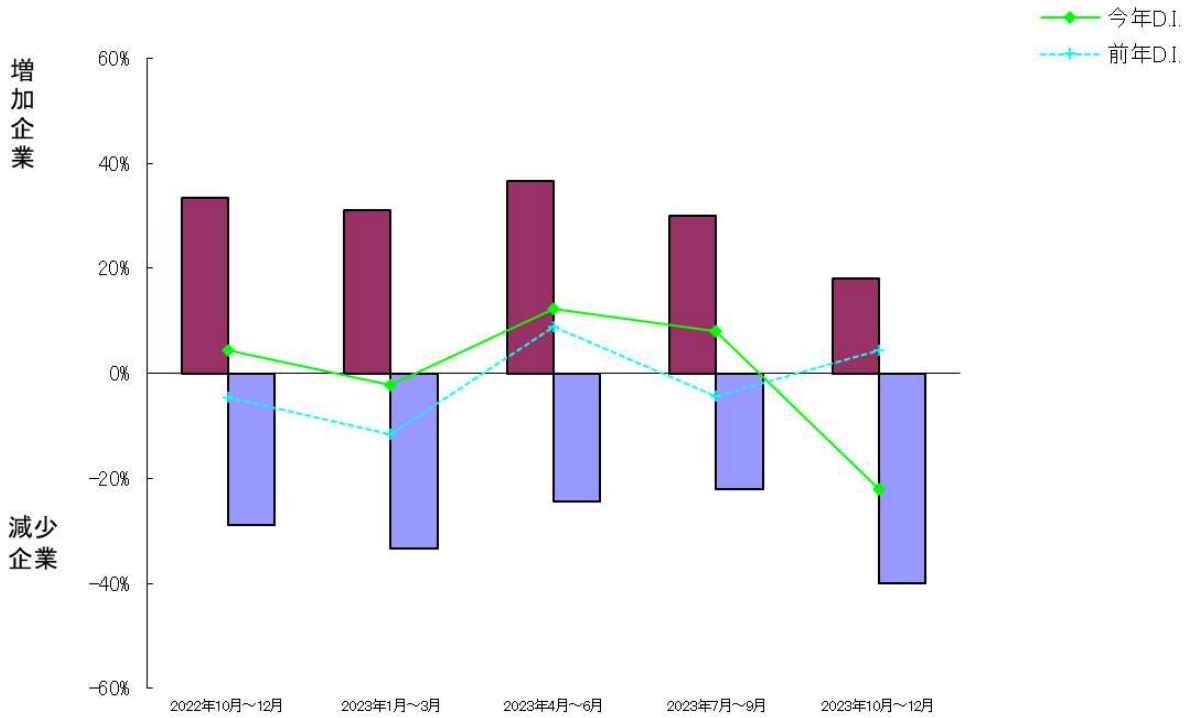
- 企業のコメント
- ・ 9月10月頃から年末に向けて年一番の繁忙期になるが仕事量はさほど増えていない。アフターコロナというよりは原料などの価格が上昇しすぎてその対策による影響が大きい。売上は上がるが気を付けていく必要がある。
 - ・ 今年2月～5月の牡蠣の仕入れについて、量が少なく、価格が高い状況が続いた。よって、今期は在庫少なく、価格が高い在庫となっている。11月以降の収支について厳しい状況にある。
 - ・ 仕事量を確保しても、人材が不足しており確保に苦慮している。加えて人件費増加により利益の確保が難しい状況が続いている。
 - ・ 業績悪化の原因は人員不足のため受注は多いので人の確保が出来れば解決できる。そのため社員募集に力を注いでいる。
 - ・ 天候に左右される業態のため今年度の収穫は厳しい状況である
 - ・ 収支は悪くなっていないが、この先原材料や燃料が安くなることが考えられないので、製品価格の値上げの時期や上げ幅を検討しなければいけないのではないかと。

製造業（商工会地域）

2.売上額(加工額) -前年同期比-

広島県 製造業

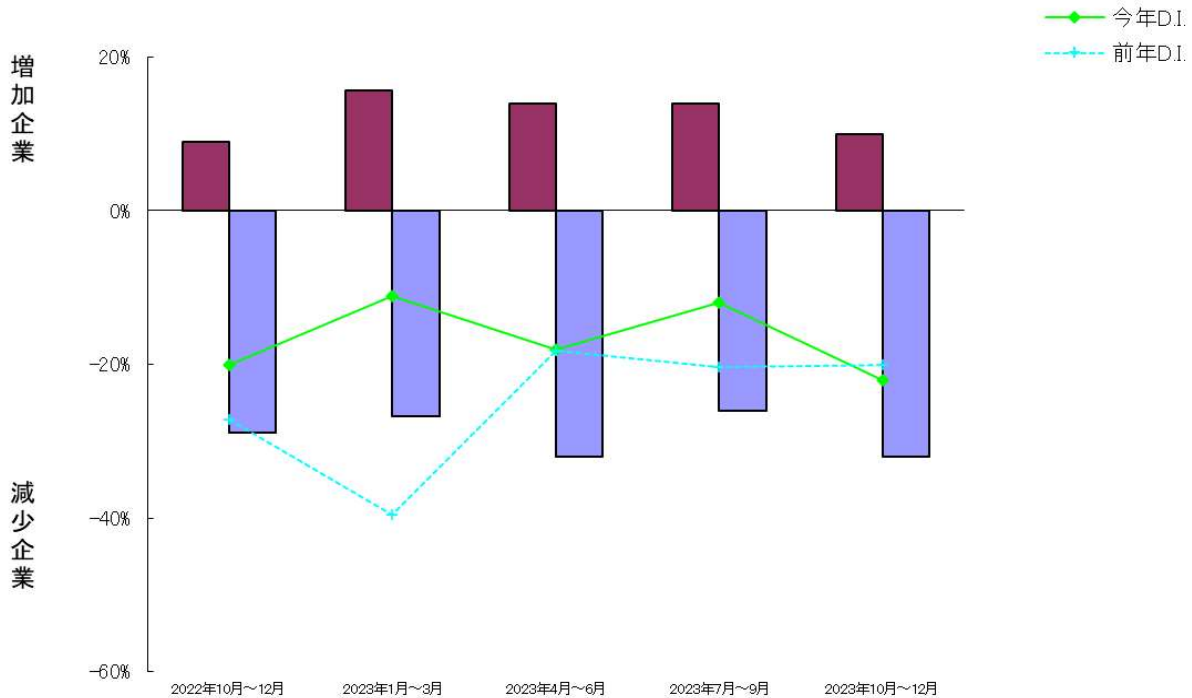
売上額の状況-前年同期比-



3.採算(経常利益) -前年同期比-

広島県 製造業

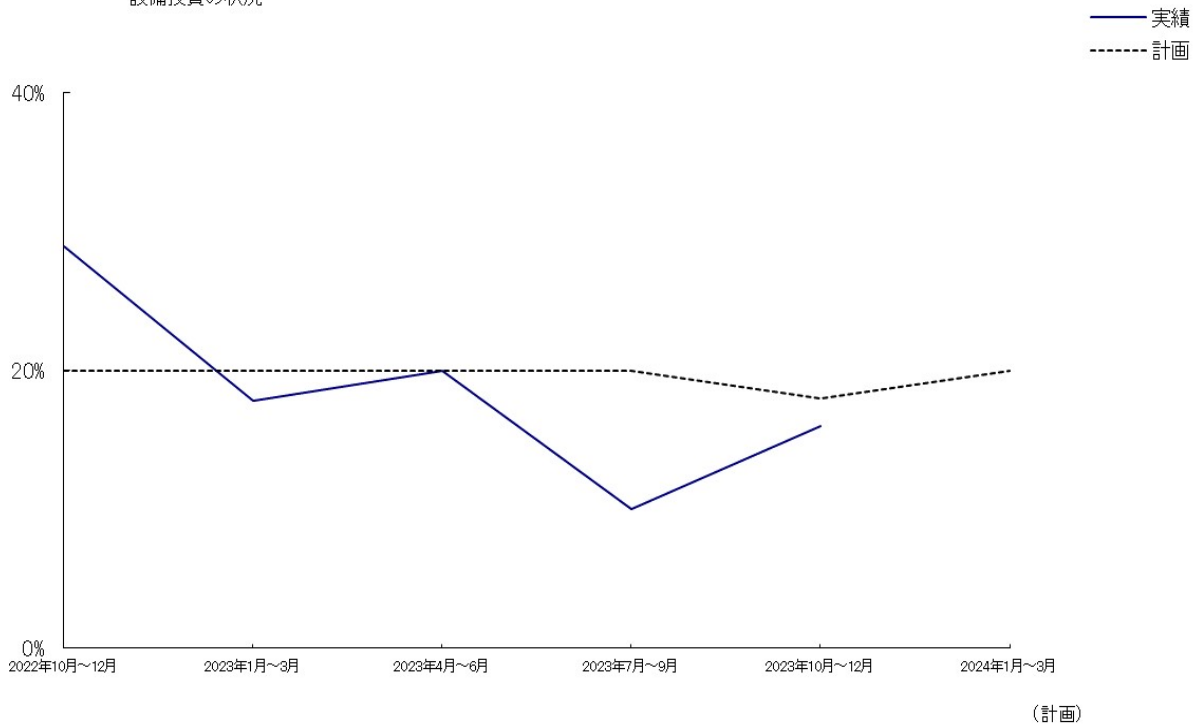
採算の状況-前年同期比-



4.設備投資の状況

広島県 製造業

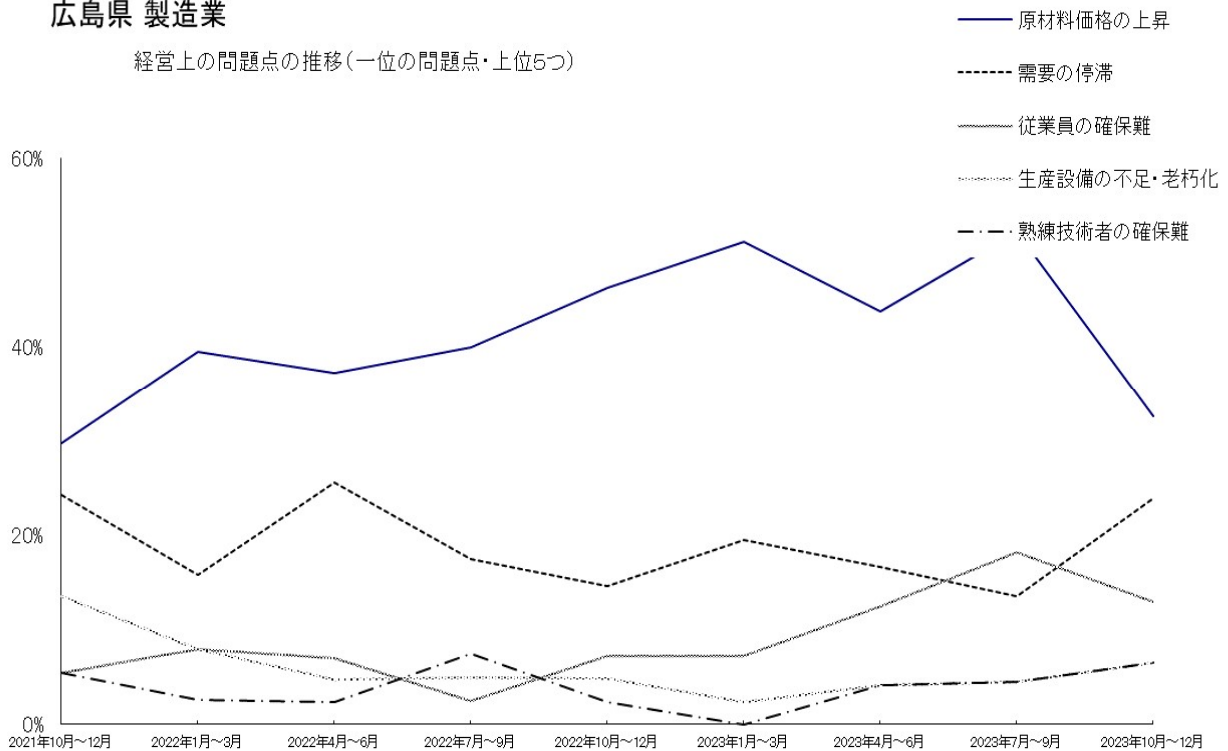
設備投資の状況



5.経営上の問題点（1位の問題点・上位5つの推移）

広島県 製造業

経営上の問題点の推移（1位の問題点・上位5つの推移）



建設業（商工会地域）

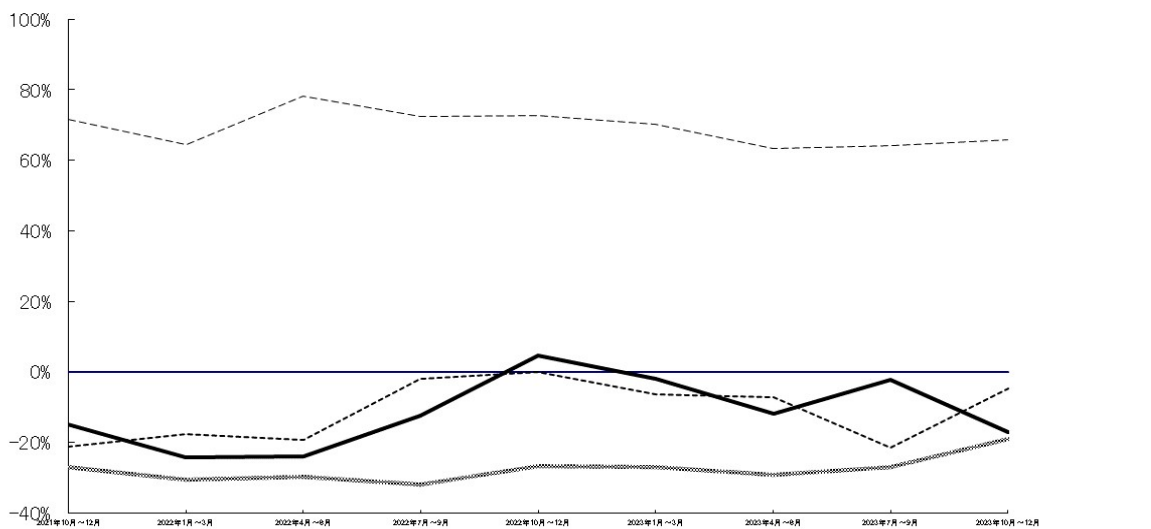
1.主要景況項目の推移 -前年同期比-

建設業 DI 主要項目	（前期）		（今期）		（来期見通し）	
	R5.7～9	R5.10～12	前期との比較	R6.1～3	今期との比較	
売上額 （完成工事額）	-2.4	-17.0	↘	-19.5	↘	
材料仕入単価	64.2	65.9	→	48.8	↘	
採算	-26.9	-19.1	↗	-23.8	↘	
資金繰り	-21.4	-4.8	↗	-14.3	↘	

広島県 建設業

主要景況項目の推移 -前年同期比-

D.1



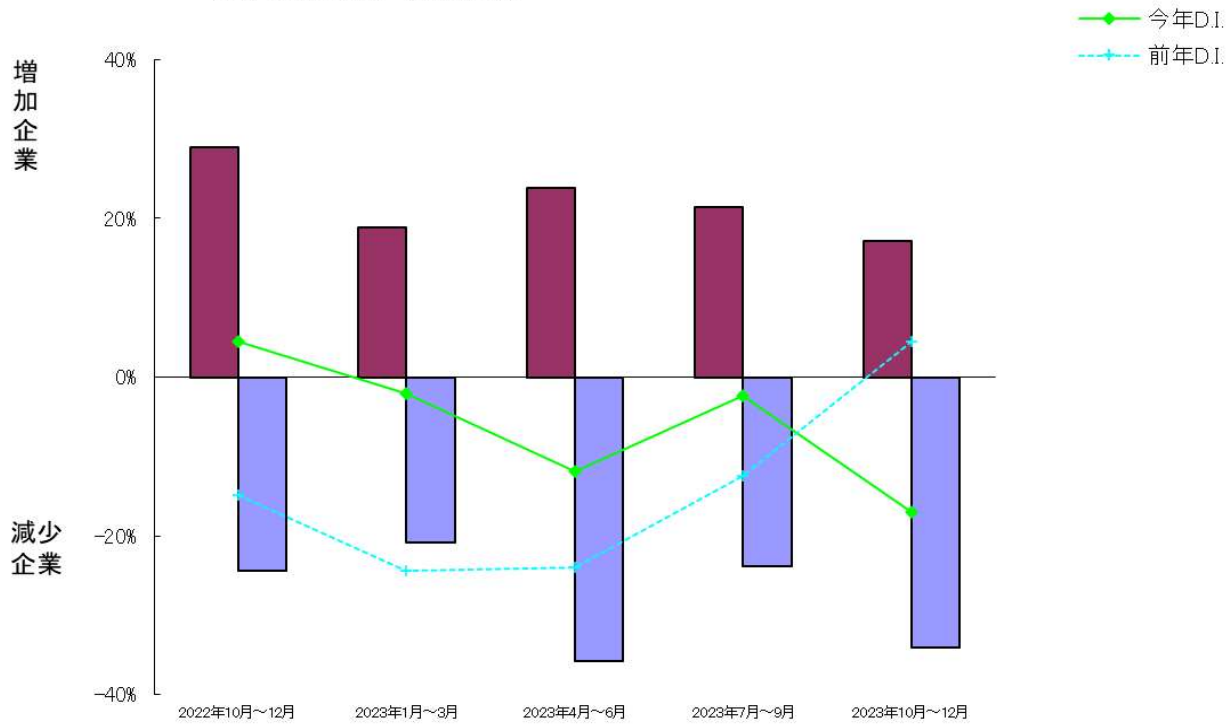
- 企業のコメント
- ・ 年末にかけて仕事量が増えている。来年も同じ感じで人材を増やす考えです。
 - ・ 原材料の高騰などにより、利益が減少しており経営状況が悪化している。
 - ・ 過疎化により、住宅新築・改築等減少しつつ、建築業も厳しい状況。
 - ・ 材料費等の経費増加に伴い、利益が出にくい中、賃上げを目指すのは難しい。
 - ・ 従業員の高齢化で効率の悪化。民間の需要は単価の設定が低く、打合せ等の時間が増え効率が良くない。
 - ・ 外注業者を増やすことで受注件数を増やす事が可能となっている。しかし、利益率的には減少する事が明らかであるので、自社の施工の工事がどれくらい完成できるかで最終的に今期の結果が変わる。

建設業（商工会地域）

2.売上額(完成工事額) -前年同期比-

広島県 建設業

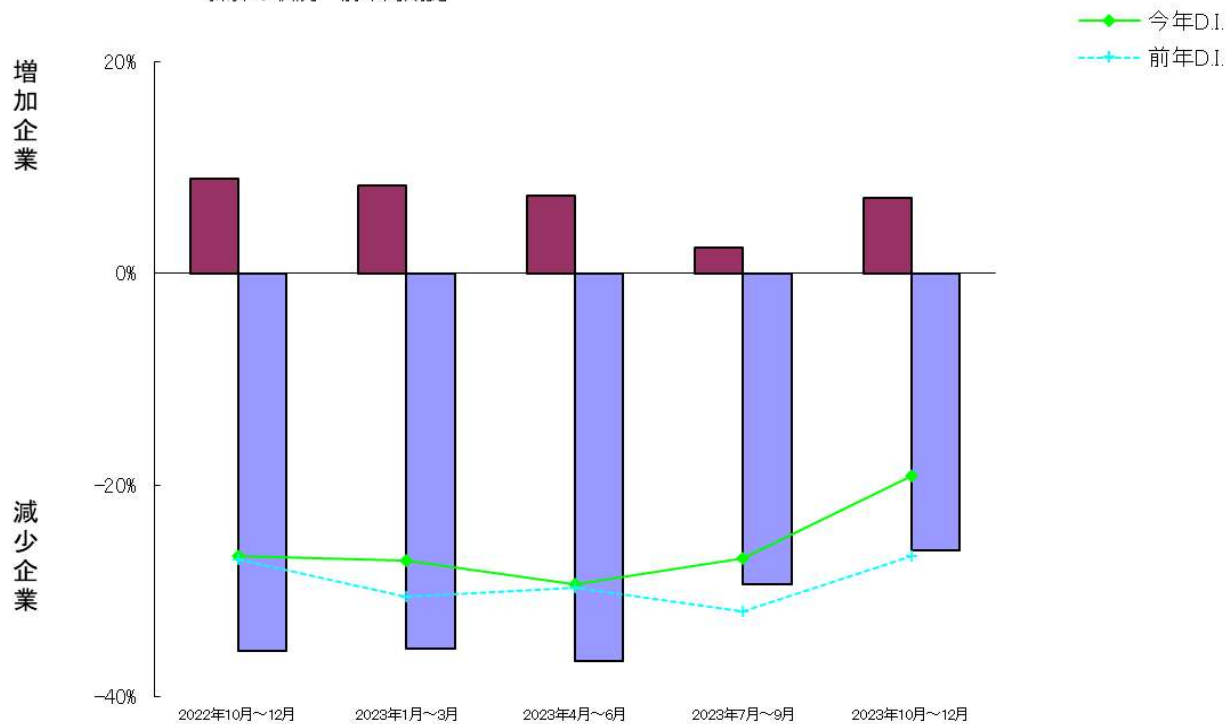
完成工事額の状況-前年同期比-



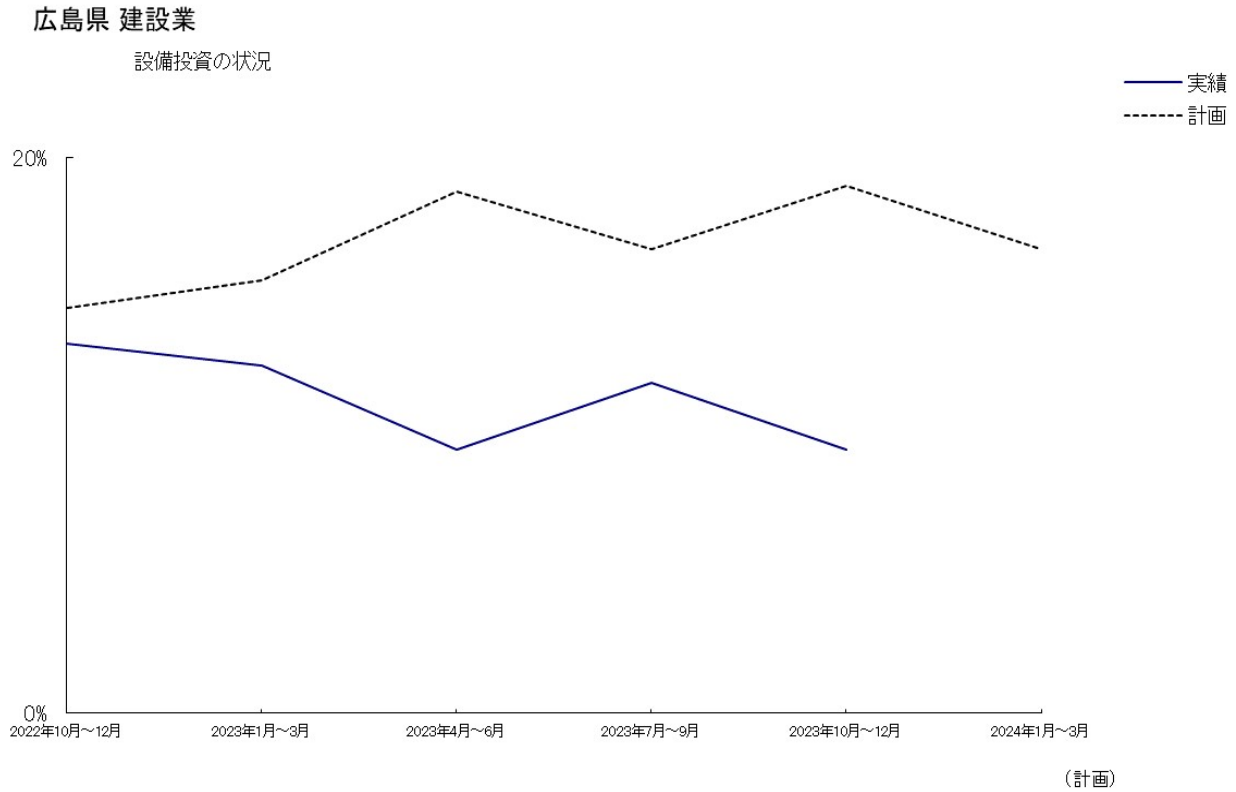
3.採算(経常利益) -前年同期比-

広島県 建設業

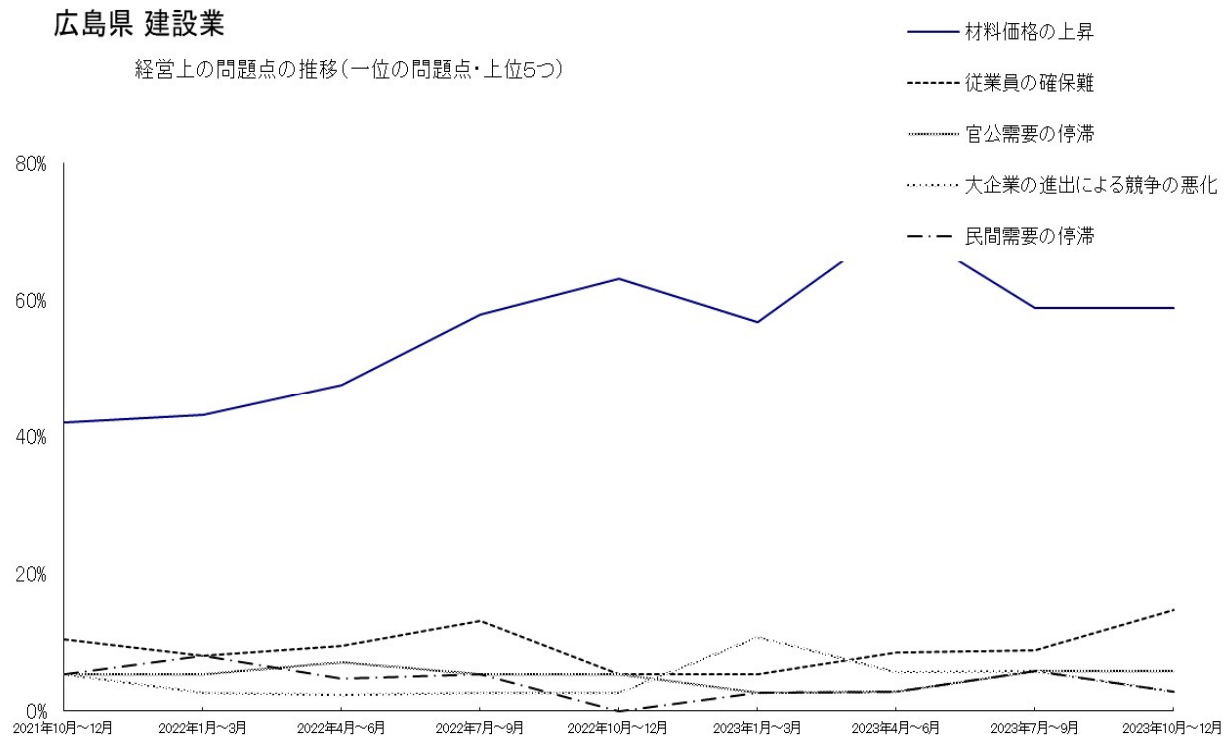
採算の状況-前年同期比-



4.設備投資の状況



5.経営上の問題点（1位の問題点・上位5つの推移）



小売業（商工会地域）

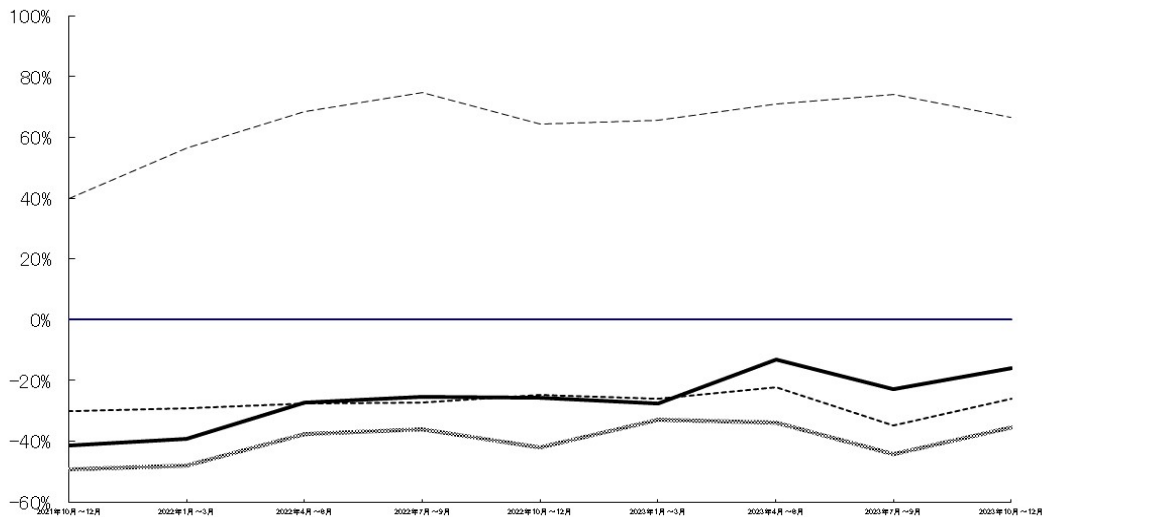
1.主要景況項目の推移 -前年同期比-

主要項目	小売業 DI		（前年同期比）		
	（前期）	（今期）	（来期見通し）	（来期見通し）	
	R5.7～9	R5.10～12	前期との比較	R6.1～3	今期との比較
売上額	-22.9	-15.9	↗	-17.4	↘
商品仕入単価	74.3	66.7	↘	55.1	↘
採算	-44.1	-35.3	↗	-30.9	↗
資金繰り	-34.8	-26.1	↗	-18.9	↗

広島県 小売業

主要景況項目の推移 -前年同期比-

D. I



..... 企業のコメント

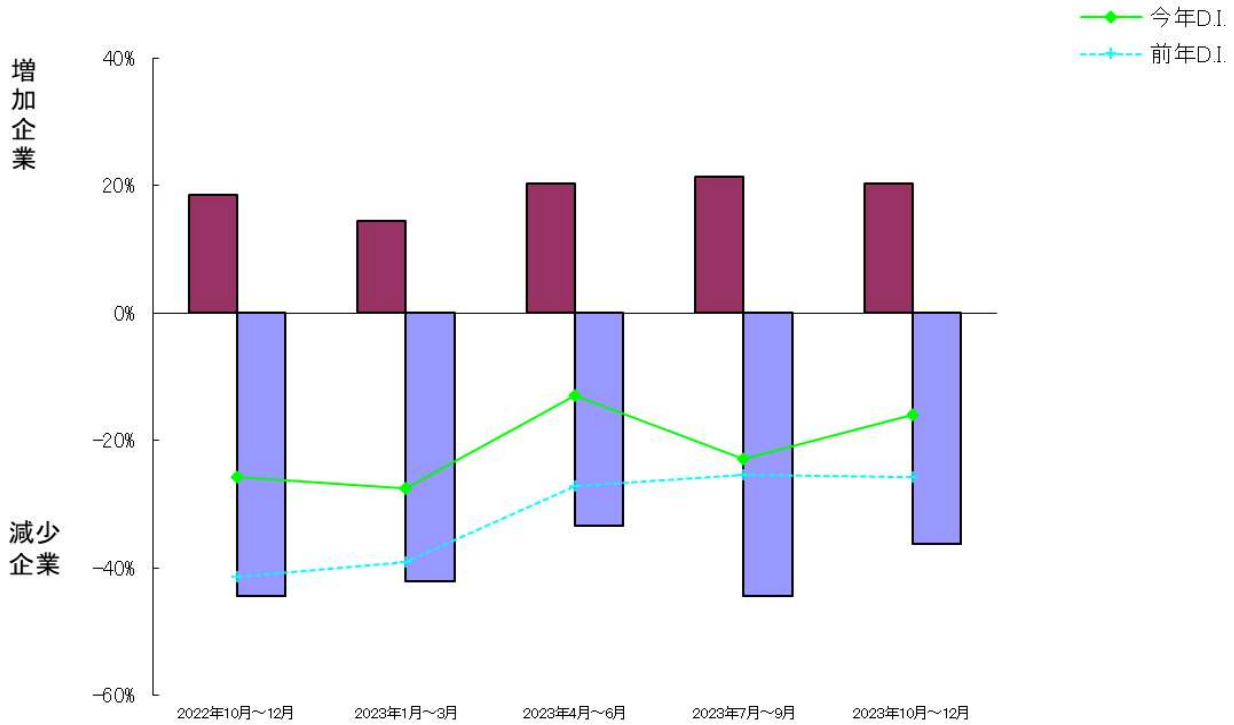
- ・円安により輸入商品を扱う業者にとっては厳しい状況が続いている。
- ・今年は特産品の柑橘が気候の影響で大幅な減少が見込まれるため、ふるさと納税・宅配料ともに減収となる見込み
- ・ネット購入の増加、人口の減少、物価上昇。
- ・売上においては、順調に上がってきているが、それと同時に仕入れや経費も上がってきている。全てを価格に転嫁できないので、利益を圧迫してしまう。今後利益率を意識した新商品開発が必要である。
- ・秋でも夏日の多発する気候で、人の足や食欲に鈍さを感じており、消費活動が売上に繋がっていないと思います。物価高で嗜好品への支出も減っていると感じます。
- ・11月に入っても暖かい日が多く、秋冬ものがでにくい。野菜等の高騰もあり、家計は負担が大きくなっている。衣料品は欲しくても先延ばし感がある。

小売業（商工会地域）

2.売上額 -前年同期比-

広島県 小売業

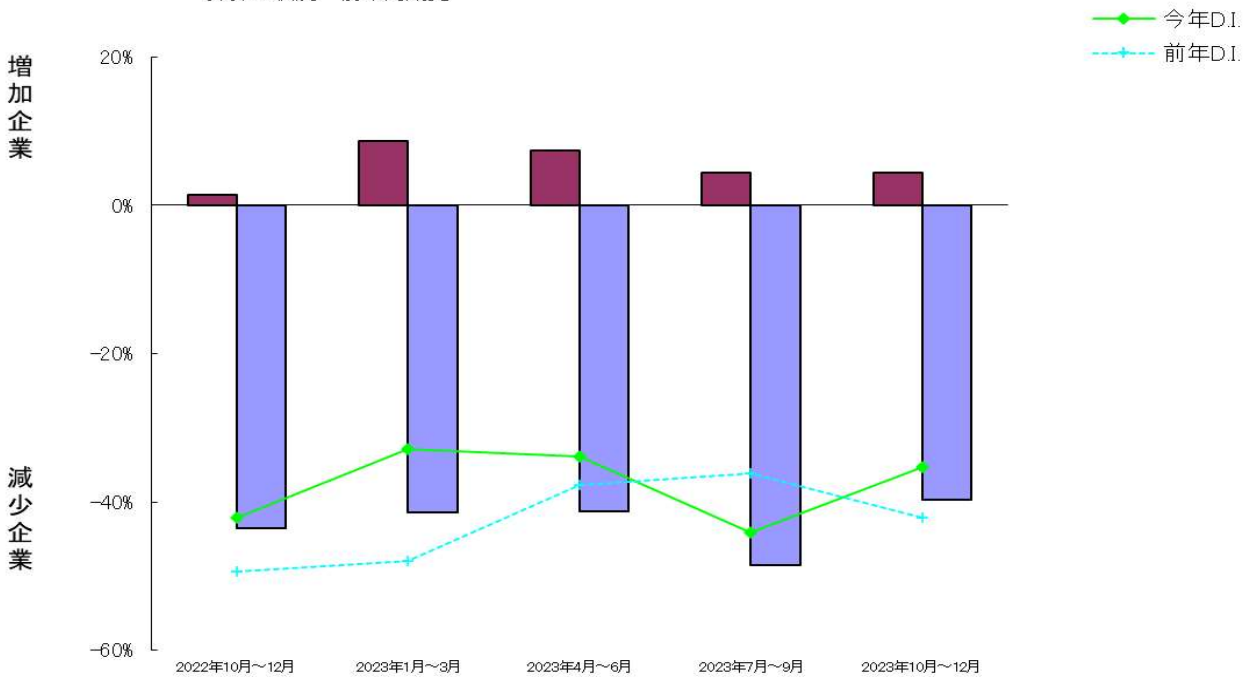
売上額の状況 - 前年同期比 -



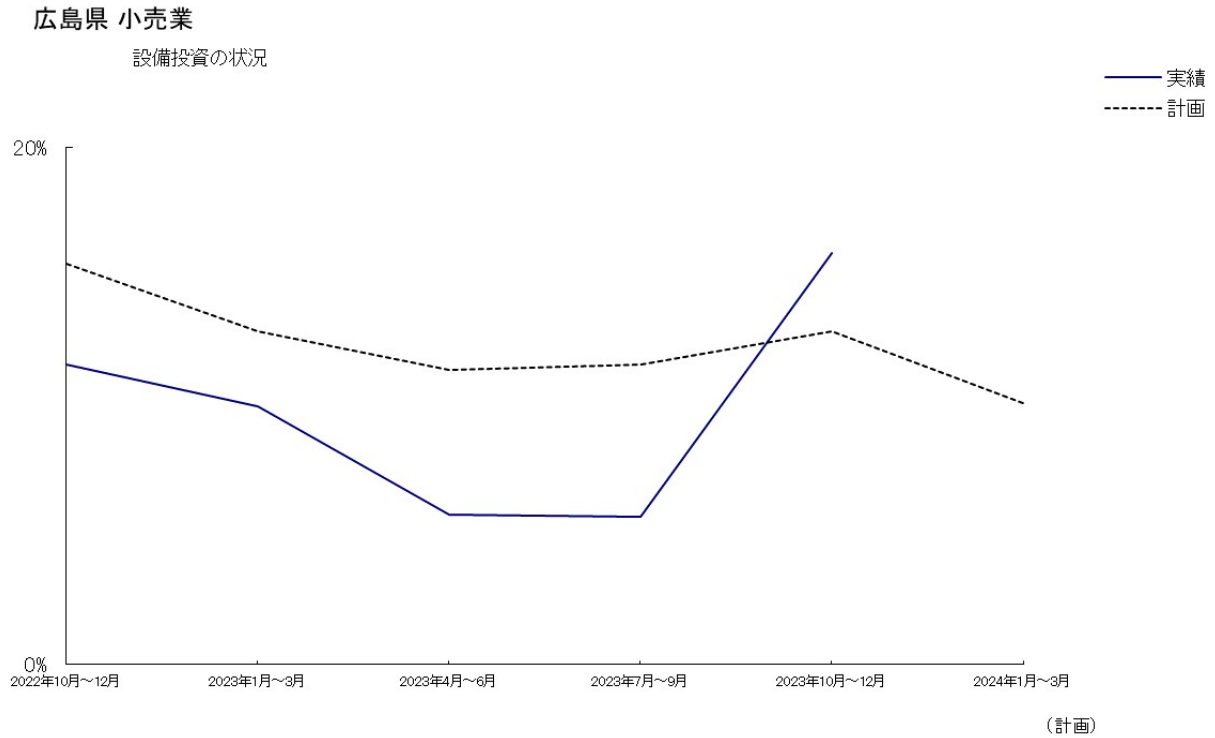
3.採算（経常利益） -前年同期比-

広島県 小売業

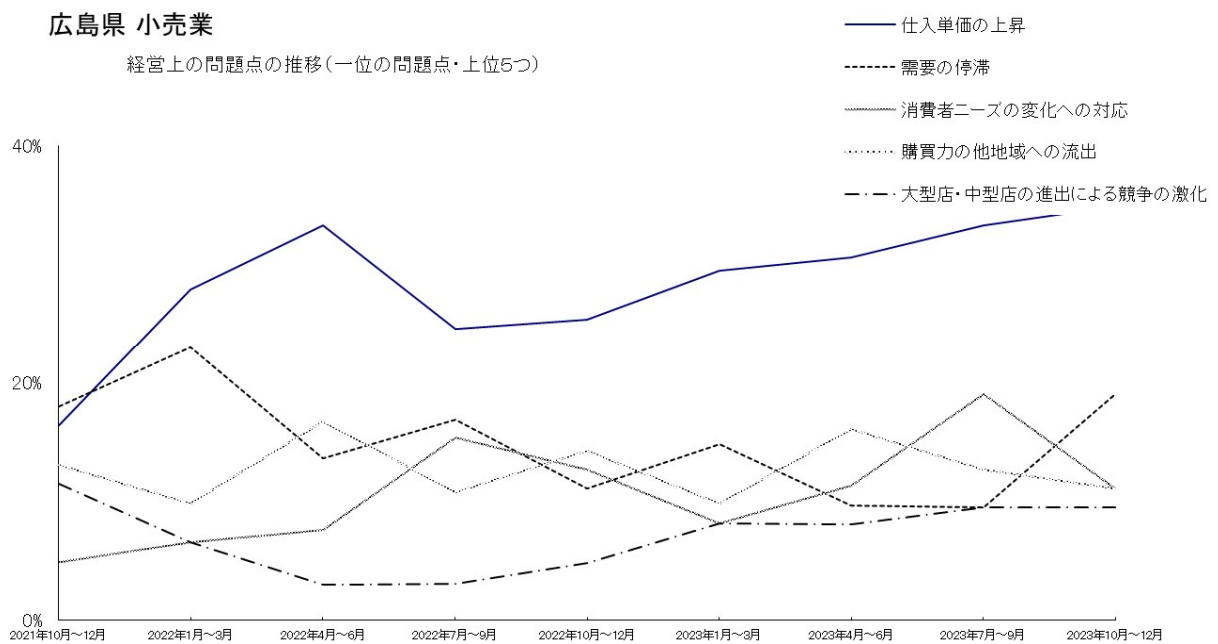
採算の状況 - 前年同期比 -



4.設備投資の状況



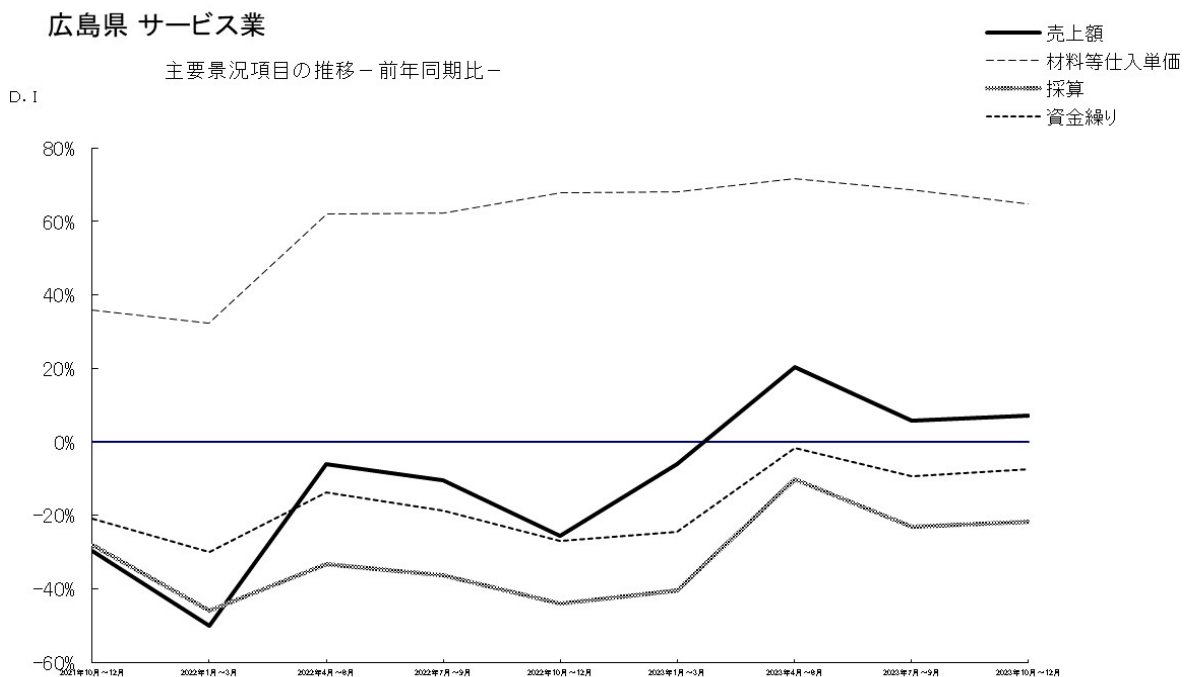
5.経営上の問題点（1位の問題点・上位5つの推移）



サービス業（商工会地域）

1.主要景況項目の推移 -前年同期比-

サービス業 DI 主要項目	（前期）		（今期）		（来期見通し）	
	R5.7～9	R5.10～12	前期との比較	R6.1～3	今期との比較	
売上額	5.8	7.2	→	-7.2	↓	
材料等仕入単価	68.6	64.7	↓	55.9	↓	
採算	-23.2	-21.7	→	-17.4	↑	
資金繰り	-9.2	-7.5	→	-10.7	↓	



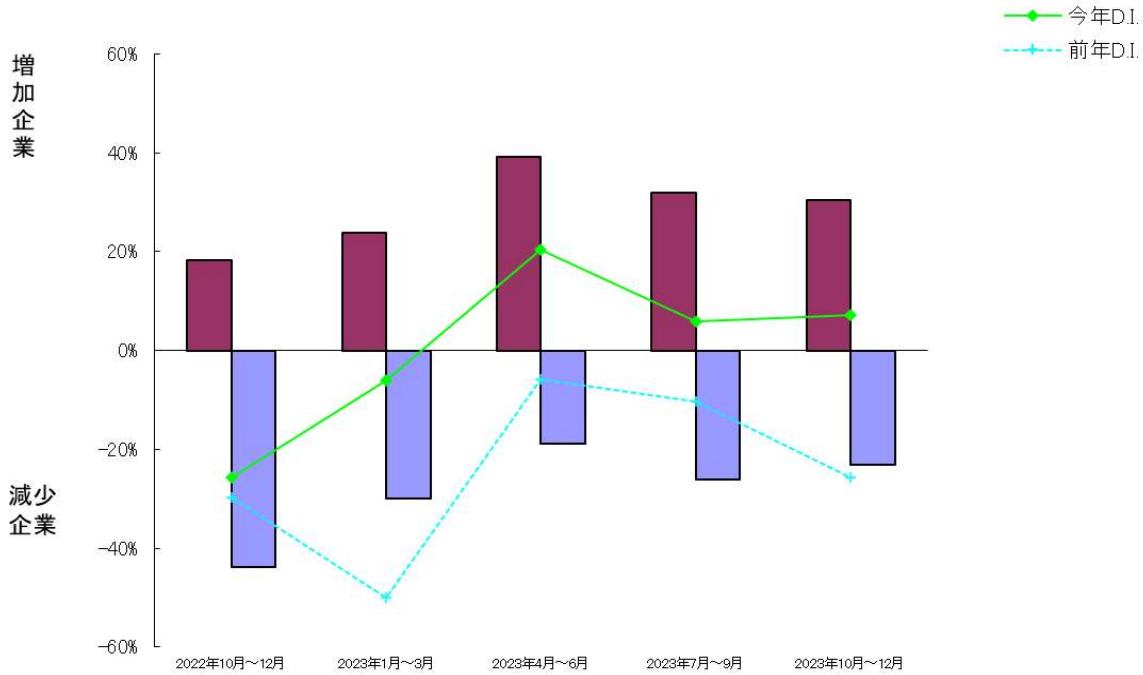
- 企業のコメント
- ・ 大型店舗やネット販売の台頭により新規顧客の獲得は厳しく既存顧客は高齢化及び人口減少により減少傾向
 - ・ 客足は回復しているがテイクアウト増加や仕入れ負担増加により徐々に採算は悪化している価格転嫁を行うと顧客は離れるため難しい
 - ・ 移動制限の緩和、インバウンド需要により、都市部を中心に売上高が回復しているが当社の商圏である中山間地域についてはその影響は少ない。また運転手不足により依頼をお断りしている状況である。
 - ・ コロナ禍も明け、売上金額および来店客数ともに大幅な増加がみられた。財務状況は改善し収益性も向上しているが、反面水道光熱費や最低賃金の上昇およびインボイス制度の開始によるコストアップも懸念される。
 - ・ 中古相場が安定したことにより車両仕入れ単価が下がり車両販売の増加に繋がった。新車の納期が早まったことにより新車の販売増加に繋がった。
 - ・ 5月より値上げした分売り上げは上がっていますが、仕入れ等上昇しているので、なかなか利益が出ているようには思えません。スタッフの高齢化でスムーズに運ばないことも多くなってきました。
 - ・ 物価高で消費者の財布のひもが固い様な気がする、特に家族ずれ、夏と比べると来客減。

サービス業（商工会地域）

2.売上額(加工額) -前年同期比-

広島県 サービス業

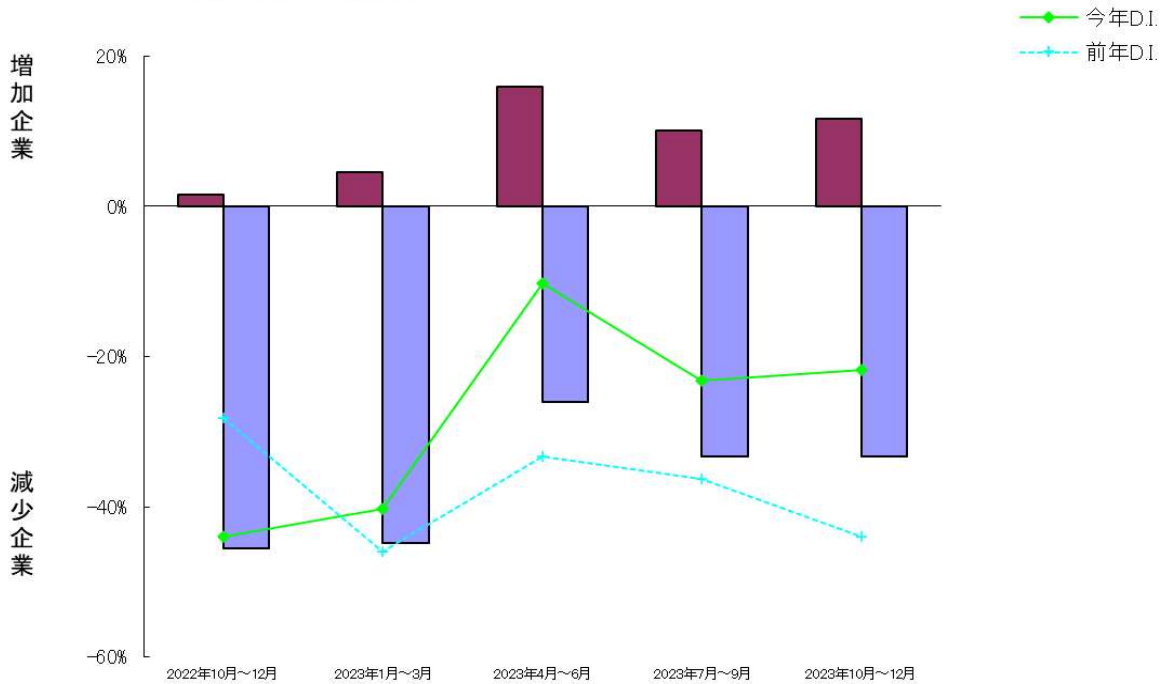
売上額の状況-前年同期比-



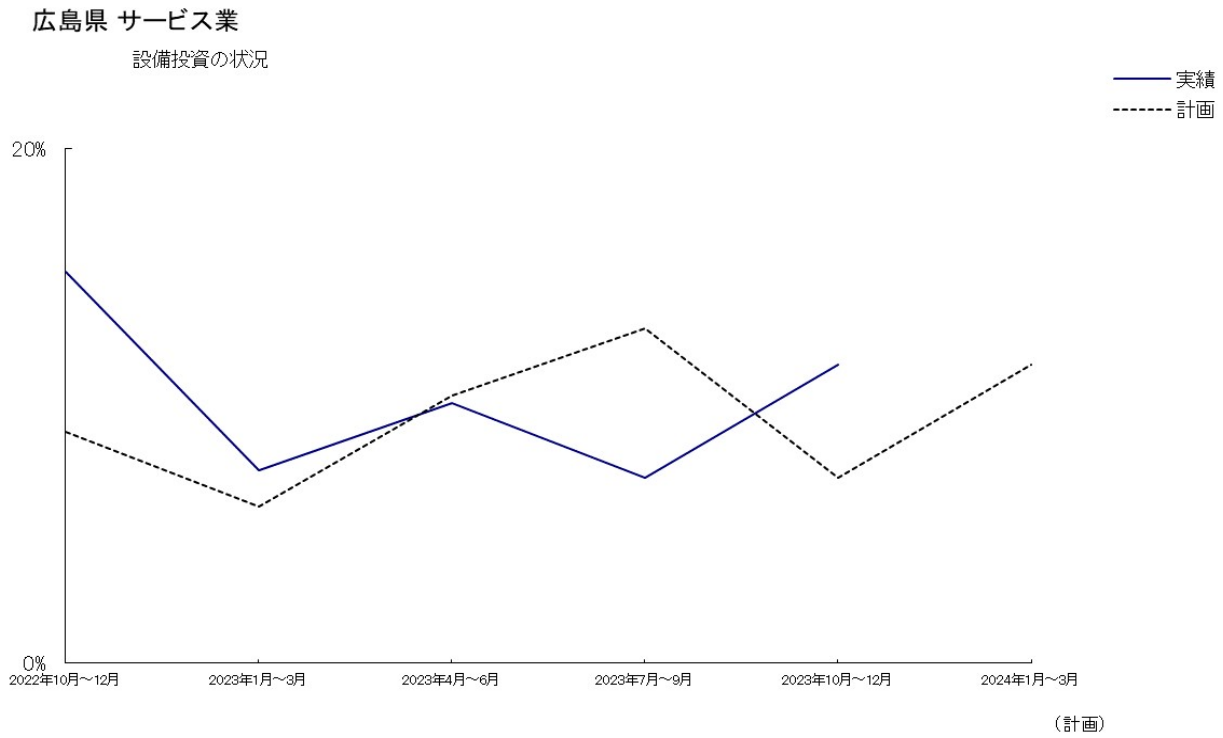
3.採算(経常利益) -前年同期比-

広島県 サービス業

採算の状況-前年同期比-



4.設備投資の状況



5.経営上の問題点（1位の問題点・上位5つの推移）

